

公益社団法人日本義肢装具士協会

平成 31 年度 事業計画

(平成 31 年 5 月 1 日～平成 32 年 4 月 30 日)

事業概要

本会の事業は、講座事業、災害支援事業、学術大会、研修セミナー、国際支援活動事業、学術誌・白書の発行など、臨床現場において対象者に質の高い適合技術を提供するため、義肢装具士の資質の向上、専門知識の向上を図ることにより、対象者の社会参加と社会的理解の促進が直接的目的であり、ひいては国民の保健・医療・福祉に寄与することを目的としている。

I. 公益目的事業

1 義肢装具をはじめとした福祉用具を必要とする者の生活の質の向上に資する事業

1-1 講座事業

本事業では、国民に対し、義肢装具等の福祉用具を必要とすることが非日常ではないことや、義肢装具等の福祉用具を使用しながら良質な日常生活を送ることに対する理解を深め、対象者の日常生活の質の向上を目的として実施する。

1) 義肢装具体験イベント（障がい者、義肢装具士の啓もうに関する事業）

・西東京市立保谷中学校、八王子市立第五中学校にて開催予定

1-2 災害時支援事業

本事業では、国内外の自然災害等の被災地域において被災生活を送る者への生活支援及び義肢装具等の福祉用具の供給に関する支援を各行政機関や関連団体と連携して実施する。

1) 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）の構成団体としての取り組み（大規模災害被災者支援に関する事業）

2 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する学術・技術の向上、研究開発及びその成果の普及・振興に資する事業

2-1 学術大会

本事業では、義肢装具等の福祉用具に関する学術を普及・発展させ、臨床に役立つ知識と技術を向上させる目的で、教育講演並びに対象者に関する医療、リハビリテーション及び日常生活面での支援について臨床経験又は学術経験を有する者の研究成果発表、及び最新機器等の情報提供を行う。

<平成 31 年度は開催しません>

2-2 研修セミナー

本事業は、義肢装具士が義肢装具等の福祉用具に関する最新技術又は知識を学び、臨床において従来から実施している医療技術を応用発展することで、対象者へより良質な医療技術の提供を実現することを目的としている。

1) 研修セミナー（研修セミナーに関する事業）

- ・平成 31 年 8 月 25 日 担当：研修委員会 西日本支部
「ユーザーに好まれるための義肢装具の設計・改良方法 ～ユーザーニーズをつかむ感性工学～」
- ・平成 31 年 9 月 7 日 担当：研修委員会 東北支部
「生活を支える義肢装具・今後の義肢装具士の役割と課題 第 2 弾 ～東北 6 県による義肢装具士の地域での役割・活動について～」
- ・平成 31 年 9 月 21、22 日 担当：研修委員会 南日本支部
「坐骨収納型ソケット実技セミナー ～正確な知識と技術を習得するために～」
- ・平成 31 年 10 月 26 日 担当：研修委員会 北海道支部
「多職種を理解する 第 6 弾 様々な視点から診る足病変アプローチ」
- ・平成 31 年 11 月 予定 担当：東日本支部
「代表的な足部疾患に対するアプローチ」
- ・平成 31 年 12 月 1 日 担当：研修委員会 中部日本支部
「脳性麻痺と下肢装具療法セミナー」
- ・平成 31 年 予定 担当：研修委員会 東日本支部
「先天性四肢形成不全児及び小児切断に対する義肢」
- ・平成 32 年 3 月 8 日 担当：研修委員会
「義肢装具適合に必要な評価学 第 5 弾 ～低活動下肢切断者へのアプローチ～」

2-3 新たに資格を取得した者に対する教育セミナー

本事業は、新たに義肢装具士の資格を取得した者に対し、義肢装具士の業務について理解を深め、義肢装具士が対象者にとって医療技術を習得した専門家としての支援者になるための育成カリキュラムを提供する。

1) 生涯学習・基礎プログラムの実施（生涯学習に関する事業）

- ・平成 31 年 5 月以降 各支部で実施 担当：生涯学習委員会

3 国際協力及び貢献に資する事業

3-1 国際支援活動事業

本事業は、福祉用具に関する技術及び使用に関して発展・開発途上にある国又は地域の人々に対する支援として、海外在住の対象者(国籍問わず)に対し、日本の福祉用具に関する最新医療技術を提供する義肢装具士の活動に対して助成するもので、義肢装具士の技術及び臨床経験

を活かして、海外の対象者の日常生活の質の向上及び福祉用具の普及・発展を図るための、国際協力・国際貢献事業である。

- 1) 国際支援活動助成の実施（国際交流及び国際支援に関する事業）

3-2 関連団体との連携・支援事業

本事業では、医療技術関連団体と連携協力し、国内外の福祉用具に関する医療技術の普及・発展に貢献できるよう活動を行う。公益法人及び公益性のある団体が実施する学術、教育、講演、国際支援などの活動に対し、学術・技能向上のための提携交流、支援活動、助成等を行うことがある。

- 1) ISPO 世界大会 2019 への支援（国際交流及び国際支援に関する事業）
- 2) 各地域における（一社）日本義肢協会、（一社）日本義肢装具学会等の義肢装具関連団体との協力・協働事業の実施

4 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する刊行物の発行及び調査研究事業

4-1 学術誌「PO アカデミージャーナル」

福祉用具に関する学術論文集として、学術大会等で発表され、その研究成果について討議された義肢装具士の優れた研究論文及び義肢装具士の職域に関連する学術情報を特集記事として提供する学術誌を発行する。

- 1) PO アカデミージャーナルの発行（学術誌の編集に関する事業）
 - ・ 27 巻 1 号（平成 31 年 6 月発行予定）
特集「上肢装具の製作に対する理論・スプリントと上肢装具の有効性」 担当：編集委員会 北海道支部
 - ・ 27 巻 2 号（平成 31 年 9 月発行予定）
特集「地域脳卒中リハビリテーション」 担当：編集委員会 東北支部
 - ・ 27 巻 3 号（平成 31 年 12 月発行予定）
特集「パラスポーツの技術支援」 担当：編集委員会 東日本支部
 - ・ 27 巻 4 号（平成 32 年 3 月発行予定）
特集「筋電義手」 担当：編集委員会 中部日本支部

4-2 白書の発行

対象者へのより質の高い福祉の増進を実現するため、福祉用具に関する実態を調査し、義肢装具士の技術の展望を検証する。医療領域、福祉領域、労災領域等核領域における福祉用具の需要と供給の実態調査や義肢装具士の実態調査及び展望など、各テーマにそった調査・編集を行い、白書として刊行する。

- 1) 白書の企画・編集

II. その他の事業（相互扶助等事業）

1. WEB サイトでの会員限定の情報提供
2. 各支部（地域）での会員管理や運営方法についての会議
3. 会員表彰

III. 理事会・総会等の開催

1. 理事会

- 1-1 平成 31 年 6 月 22 日開催： 平成 31 年度決算及び事業報告の決議、そのほか
- 1-2 平成 31 年 7 月 14 日開催： 会長等の選任
- 1-3 平成 31 年 9 月 開催： 各事業の進捗確認
- 1-4 平成 31 年 12 月 開催： 各事業の進捗確認
- 1-5 平成 32 年 3 月 開催： 平成 31 年度事業計画及び予算案の決議、平成 31 年度の総括

2. 総 会

- 2-1 定時社員総会 平成 31 年 7 月 14 日開催予定： 平成 30 年度決算及び事業報告の承認等

以上